パンタナール通信

南北米福地開発協会　会報　２０１１年６月１日　９３号

第１１回国際協力青年奉仕隊はアルトパラグアイ州オリンポ市にて活動をします。

四月初めに、アスンションとスカイプで佐野さんと今年の青年奉仕隊の計画について話をしました。

既に佐野さんがオリンポの市の関係者と話を進めており、オリンポ市で進めて行こうとしている農場の開墾を青年奉仕隊が行った時に行う方向で進めて行くことになりました。

オリンポ市としては市の食生活の習慣を変える為、野菜を作り、市の人が野菜を食べる習慣を作り、健康改善にしていければと考えているようです。

すでに市は農場を拓く土地も定めており、特に今年はパラグアイ独立２百年祭であるので新しい市作りをしたいと新しく選ばれた市長が意欲的であるとの事でした。

オリンポの市にはインディヒナの村もあり、交流の場も持てればと計画をしております。オリンポ市は人口２千名にも満たない小さな市で二〇〇七年、第七回国際協力青年奉仕隊の時、市内のメイン通りにニームの木を植え、市内の学校の生徒との文化交流を行うとともにインディヒナの村に文房具を贈りました。

それとともにエステ市で育てている苗木を用いてエステ市の近くの市に植樹活動を市内の学校と進めて行くことになります。

（柴沼記）

インディヒナ村訪問

オリンポの市長と飯野氏（２０１１年３月）

ボランティアという言葉の語源に「神のみこころ」「神の御旨」という意味があることをいつも意識させられる南米、パンタナールでの七回目を数える青ボ隊の活動であった。今回の特徴は今までの学校建設とは異なり、植樹活動を中心に、日本からの青年、学生とグラン　パンタナールの入り口といわれるオリンポ市の中学生、高校生との共同作業だったことである。特記すべきは若い市長や、学校長、市の観光課長まで積極的に参加してくれての期間であった。今までのようなインディヘナ村落での学校建設の為の協力作業にしても、今回のような植樹作業の場合でも一緒に活動する中で、触れ合いを持った。現地の人々との関係がいつも強く印象に残る。過去のボランティア活動ではインディヒナの村のあどけない子供達が貧しいなかでも助け合いながら、明るく生活している姿から、可愛かったとか元気をもらったという感謝につながる気持ちを、今回は、同じ多感な時期を過ごしているほぼ同世代の青年たちで、言葉や習慣の違いの壁を越えて、自然に同世代感を共有した。むしろ慣れない言語や作業を通じての交流が新鮮で感動的であったようだ。言葉の壁はいつもの事であるが思っていたほど苦にならず乗り越えられてしまう。スムーズでなくとも英語で会話できる高校生の何人かと、日本人の学生達はコミュニケーションにおいて意気投合がはやかった。

地球の裏側に位置する異国の生活の多様性や格差と共通性への驚きと感動が、短期間であっても彼らの顔つきや顔色まで生き生きと別人のように変えてゆくのを見れるのが引率者として嬉しく楽しい。

とにかく日本からは遠距離のパンタナール地域、パラグアイ国内でありながら、首都圏から遠く離れ、道路などインフラ整備の極めて遅れた場所故に、雨など降ったときは陸の孤島に閉じ込められてしまうような状況も発生する。今回も予想以上の降雨に心配もあったが、かろうじて主催者である南北米福地開発協会の迅速な対応、協力で克服する事が出来た。

一緒に活動した中学生、高校生やインディオ村の子供達にもプレゼントとしてあげる事の出来た文房具など提供してくれた会社、企業、更には切手集めなどで資金面の援助をしてくれた、以前青ボ隊に参加した個人や日本の青年グループ他、今回も背後で支えてくださった多くの人々の善意があった。このようにして七回目を無事成功裏に終了する事が出来た。

神のボルンタが種となり、多くの人々に花を咲かせ、実を実らせてくれるボランティア活動として今後も継続される事を期待し、善意を持って協力してくれた全ての人々に感謝しつつ総括とさせていただきます。

第七回国際協力青年奉仕隊　隊長　三石昭治

【神山会長レダ滞在要約報告】

四月十九～二十一日にレダに滞在された神山会長と松田さんは、二十一日朝十時、レダを出発され、アスンシオンに向かいました。

滞在中は、早朝から夜遅くまで、精力的に園内を視察確認され、メンバーを復興して行かれました。

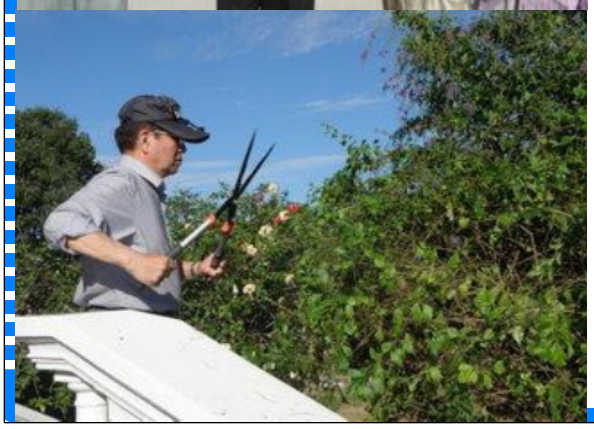
「パンタナールは、洪水が来て豊かになって来た所。水位の上昇は心配せず、水が来ることによって土地が肥え、草木が育つと考えれば、素晴らしいことです。建物はもともと洪水をふまえて比較的高い所に建てあり、本館は周囲を花壇で覆っているので、裏の二つの花壇入り口部分を土のうで塞げば、五十ｃｍは更に守られます。

研修所も廊下の周囲に手すりの壁で囲ってあるので、その囲いの通路部分を土のうで塞げば、建物の中に水が入って来ないよう手すりの高さの分だけ守られるようになっています。

また、本館、ゲストハウス、研修所などの建物階は高床式に柱だけを建てる設計なので、水が更に来ても二階以上は守られるようになっています。対処する努力は大切ですが、洪水のことをどうなるのかと懸念する以上に、日々ただ仕事に従事しているだけでなく、大きな構想を持って理想に向かって前進して行くのが人として素晴らしいことです。

今こそレダ開発の計画に基づき四十年かけても勝利して行こうではないですか。」と激励されました。。また、レダの近況をしっかりビデオに撮って皆に希望を与えたいと、松田さんを伴って来ましたので、実際現場を視察されて中田所長から説明を受けられる中で、一号池から網で獲った見事に成長しているパクーを手にされ、魚養殖には大変希望を感じたようです。

（四月二十一日　飯野報告）



東日本大震災ボランティア参加

（南北米の青年会員による）5月初め

第14回ピースライフセミナー開催

川崎市民プラザにて（4月23日、24日）

地球家族として自然を守りましょう

南北米福地開発協会
会員の募集中

南米、パラグアイ、パンタナール地域へのエコツアー ならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

会費は月五〇〇円、毎月、パンタナール通信を送ります。

また、各種のセミナー、エコツアー等の案内をいたします。

南北米福地開発協会 事務局
〒二一三―〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区
溝口三―十一―十五
岩崎ビル四F
電話 〇四四―八二九―二八二一
Fax 八二九―二八二〇
会費納入 郵便口座
一〇一八 〇―七七六八〇四七一
代表 柴沼邦彦
E-MAIL office@asd-nsa.jp
ホームページ http://www.asd-nsa.jp